

人が集う場を支え続けた経営者

深澤重幸

コトブキシーティング株式会社代表取締役会長の深澤重幸が2026年8月3日、85歳でその生涯を閉じた。コトブキシーティングの歩みは、父・幸也が1914年に東京で創業した家具・カーペット輸入商に始まる。関東大震災後の復興のなかでイスの製造に着目し、日本初の専門メーカーとなった。事業を受け継いだ深澤は、劇場、スタジアム、大学講堂といった「人が集う場」のインフラを支える企業へと育て上げ、いまやコトブキシーティングのイスは、国内映画館の9割、コンサートホール・劇場の8割、大学階段教室の半数以上に採用されている。

世界最大級のイスメーカーへ いち早く海外に目を向けた深澤は、英国ではロイヤル・アルバート・ホールやBBCを顧客にもつ「Audience Systems」、米国では移動観覧席のバイオニア「Interkal」、そのほかシアターチェアの「Ferco Seating Systems」などの一流ブランドを傘下に収め、コトブキシーティングを国際的な企業へと導いた。

文化と社会を支えるインフラへ 駅のホームから競技場の観客席まで、深澤が手掛けたイスは、人々が集い、時を共有する「場」の一部となってきた。その広い視野はパブリックアートにも及んだ。

経営はすでに次世代へ引き継がれ、深澤が築いたグローバルな基盤の上で、人々の集う場を支える挑戦はこれからも続いていく。



パリにて撮影（2017年）



ロイヤル・アルバート・ホール（ロンドン）



KOTOBUKI SEATING

コトブキシーティング株式会社

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台1-2-1

<https://www.kotobuki-seating.co.jp/>

